

第4章 研究のまとめ



研究のまとめ

1 成果と今後に向けて

今年度の研究実践を通して、以下の成果と課題、次年度に向けての方策が挙げられた。

(1) 成果 (○) と課題 (△)

① 児童生徒の夢や願いを基点とした授業づくり

- 【小学部】 ○学びに向かう児童の姿を引き出す授業の実現
△「私の応援計画」と「わかはとモデル」をつなぐ手立ての検討
- 【中学部】 ○実態把握から評価・改善の流れによる生涯学習力の高まりの実感
△地域との関わりにより得られる学びの効果の検証
- 【高等部】 ○生徒の思いや願いを尊重した授業の展開
△「私の応援計画」と「わかはとモデル」の結びつけ方

② 「わかはとモデル」を活用した児童生徒の見取り

- 【小学部】 ○児童の内面に着目した見取り方の広がり
△子どもの夢や願いに立ち返る評価の在り方
- 【中学部】 ○「人とつながる」等の視点の広がりによる他の視点への作用効果
△「わかはとモデル」の視点に分類できない出来事や内面の動きの見取り
- 【高等部】 ○「わかはとモデル」の視点による生徒の具体的な姿の見取りの充実
△卒業生へのアンケート結果の分析、検討

③ 「わかはとシステム」の構築に向けて

「わかはとモデル」の分析と改善

- 授業研究会やつながりミーティングの際に、「わかはとモデル」を活用することで、児童生徒の生涯学習力の高まりを学校や家庭、地域の視点で見取り、教師間で分析することができた。また、「わかはとモデル」の4つの視点を教師が様々な場面で意識できるようになってきた。
- △分析と改善を積み重ねていく中で「わかはとモデル」の4つの視点に当てはまらない児童生徒の姿についてもみえてきた。また、資質・能力との関係性がみえないことが課題として挙げられた。

「私の応援計画」への「わかはとモデル」の活用

- 児童生徒との面談時に、「わかはとモデル」の視点を生かし、対話を大切にすることができた。
- △保護者面談の際に、「わかはとモデル」の視点に関わる児童生徒の成長や変容を伝えることが不十分であった。また、児童生徒本人が振り返った「私の応援計画」を次年度以降に引き継ぎ、本人が活用できる工夫が必要であると感じた。

校内外のつながり、卒業後のつながりの検証

- つながりミーティングは、他学部の視点を授業づくりや授業改善に生かしたり、授業以外の様子(家庭や地域)から児童生徒の変容を見取ったりする機会として有効であった。また、そのことで多面的かつ複数の目による実態把握と評価が充実した。
- アンケート調査を通して、保護者の思いや願い、卒業生の生涯学習の現状を知ることができた。
- △つながりミーティングの実施時期や回数は、わかはとシステムの構築に向けて検討が必要であった。
- △「わかはとモデル」の生涯学習力を見取る4つの視点と基盤となる3つの視点が卒業後にどのように生かされ、広がっているのかを調査、分析、検証する必要がある。

家庭や地域との連携

- PTAの際に保護者に研究の説明をしたり、生涯学習に関する保護者アンケートを実施したりすることで、本校の研究の理解を促し、保護者と同じ方向で児童生徒の学びを考えることにつながった。
- △地域の活用は各学部で授業実践の中で行われているが、生涯学習力を高めるための視点からも地域展開によって得られる学びを必要なこととして共通理解するとともに、地域への発信や連携についてはまだ十分な状況とは言えないため、今後更に進めていく必要があると感じた。

「エピソードシート」の活用

○事例対象の児童生徒のエピソードを基に「わかはとモデル」の視点での見取りを行うことで、以前よりも児童生徒の意図や思い、成長と学びの広がり进行分析できるようになってきた。

△児童の夢や願いに立ち返って評価する視点が不十分だった。また、エピソードを記録し、分析することに時間的な負担があった。今後更にエピソードシートを改善し、より使いやすく持続可能な評価のツールにしていく必要があると感じた。

その他

○「私の応援計画」を活用し、児童生徒の夢や願いを大切にしたい授業づくりを進めることで、児童生徒の主体性を引き出す授業につながった。

○指導案の様式に「わかはとモデル」を組み込んだことで、関連を可視化できるとともに、生涯学習力を見取る視点を生かした授業づくりや授業改善ができた。

○「私の応援計画」「つながりミーティング」「わかはとモデル」のそれぞれの取組が、児童生徒や授業づくりを中心としながら、つながることができた。

△「わかはとシステム」の構築に向けて、「私の応援計画」「つながりミーティング」「わかはとモデル」の関係性を明確にするとともに、持続可能なシステムづくりを更に進めていく必要がある。

(2) 次年度に向けて

①「わかはとモデル」と育成を目指す資質・能力との関連性の検討

本校は、児童生徒本人を中心に作成・活用する「私の応援計画」に基づき、生涯にわたって学び続けていく資質・能力の育成に努めてきた。しかし、現在使用している生涯学習力を見取る視点である「わかはとモデル」と現行の学習指導要領で示されている育成を目指す資質・能力の3つの観点との関係については、十分に検討できていない。今後更に検討や検証を進めていきたい。

②児童生徒の評価、学びの履歴の可視化

学習指導要領の前文には、「児童生徒が、『生涯にわたる学習とのつながりを見通す』ためにもキャリア・パスポートは大切なものである」と示されている。今年度の研究を通して、「私の応援計画」の重要性や継続性を更に感じた。今後、本人自身による評価や学びの履歴を可視化するツールであるキャリア・パスポートとして「私の応援計画」を活用するなど、更なる充実を検討していく。

③保護者、地域との更なる連携

保護者、地域との連携はこれまでも大切にしてきたものである。しかし、今後も続いていく、「生涯にわたる豊かな学び」に向け、ヒト・モノ・コトにどのようにつながっているのかを空間軸と時間軸で児童生徒の変容を見取っていくためには、保護者や地域との更なる連携は必要不可欠であると考えられる。どのような点について連携を図るのか、どのような方法があるのかを次年度も考えていく。

④「わかはとシステム」を中核とした教育課程の編成

今年度、少しずつ見えてきた「わかはとシステム」を本校の教育課程の中に位置付け、今後も持続可能な仕組みとして確立していく必要があると考えている。そのためには、先ほど述べた「私の応援計画」の更なる充実や各種の教育計画の整理や関連を図っていきたい。



公開研究協議会の記録

秋田大学教育文化学部 附属特別支援学校
令和5年度 公開研究協議会 (二次案内)
参加無料

研究主題 (1年次/2年計画)
生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり
～児童生徒の夢や願いを 基点とした「わかはとシステム」の構築～

令和6年1月27日(土)

参集型開催 + オンデマンド配信

本校では、「生涯学習力」の育成を目指し、児童生徒、授業ファーストの研究に取り組んでいます。今年度(1年次)は、「私の応援計画(個別的教育支援計画)」と「生涯学習力」の育成をつなげる「わかはとシステム」の構築を進めています。
※ 主体的にヒト・モノ・コドに開わり生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力、と定義しています。

日程		※午前のみ、午後のみ参加も可能です!									
8:50	9:20	10:10	10:25	10:50	11:00	12:10	13:00	14:00	14:15	15:30	15:50
受付	公開授業	移動	(研究説明)全体会	移動	(授業研究会)分科会	昼食・休憩	シンポジウム	休憩	講演	閉会	

公開授業および授業研究会

小学部	生活単元学習 ふたば学級(1,2年生) 「おはなしふたば～十二支のはじまり～」	
授業者	武田茜 松尾佑美 平塚達也	
研究協力者	鈴木徹(秋田大学教育文化学部 准教授) 遠藤拓歩(総合教育センター 指導主事)	
中学部	生活単元学習(2年生) 「ふしぎ発見! in こども園～交流会を楽しんでもらおう～」	
授業者	下村光行 伊岡森真由 吉田みずわ	
研究協力者	武田篤(秋田大学 名誉教授) 島津寛司(総合教育センター 指導主事)	
高等部	生活単元学習(Dスタディ)月グループ(1～3年生合同) 「D スタチャレンジャーズ～ファッションを楽しもう～」	
授業者	佐藤英里 高橋浩樹	
研究協力者	藤井康博(秋田大学大学院 教授) 高橋基裕(中央教育事務局 指導主事)	

シンポジウム

テーマ
「夢や願いの実現に向けた
高等部卒業後の豊かな学びとは?」

コーディネーター
：菊地一文 氏

シンポジスト
：本校卒業生
卒業生保護者
本校元職員
福祉関係者 等

卒業生2名の在学中、卒業後の学びのエピソードから学校、家庭、地域、関係機関等とのつながりや豊かな学びに向けたヒントを探ります。

講演

演題
「豊かな学びを未来につなげるために
～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」

弘前大学大学院
教育学研究科
教授 菊地 一文 氏

経歴
1992年から青森県内の養護学校で教壇に立ち、2008年からは国立特別支援教育総合研究所主任研究員や青森県教育庁学校教育課特別支援教育推進室指導主事として教育行政に携わる。広島大学大学院教育学研究科非常勤講師・客員准教授、植草学園大学発達教育学部准教授を経て、2019年より現職。

著書
確かな力が育つ知的障害教育「自立活動」Q&A、東洋館出版社、2022。
知的障害教育における「学びをつなぐ」キャリアデザイン本人の「思い」や「願い」を踏まえた「深い学び」の実現に向けて、ジヤース教育新社、2021、他

交通案内

- バス
秋田駅西口バスターミナルから 中央交通バス
神田地野線 8番乗り場 約15分
赤川線 8番乗り場 約15分
「保戸野ハ丁」バス停下車 徒歩3分
- タクシー
秋田駅西口から 約10分 秋田空港から 約60分

申込み

- ・申込みは右のQRコード、もしくは、URLからお願いします。
- ・締め切りは、令和6年1月16日(火)です。部分参加、昼食注文も可能ですので、申込みフォームで御確認ください。
- ・参加申込みいただいた方には、1月22日(月)までにメールにて資料をダウンロードできるパスワードをお伝えします。
- ・なお、オンデマンド配信は、令和6年2月中旬を予定しております。
- ・秋田大学の学生は、担当教員を通して参加申し込み願います。

【問合せ】教職 宮野俊美 研究主任 池田和馬

本校HPは、こちらのQRコードか、右記のURLからご覧ください。

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校

〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
TEL 018(862)8583
E-mail fuyo@sh.akita-u.ac.jp
http://www.sh.akita-u.ac.jp/

シンポジウムの記録 (グラフィックレコーディング※)

- No. 1 シンポジウム 登壇者
- No. 2 Aさんの語り
- No. 3 Bさんと保護者の語り
- No. 4 元職員の語り
- No. 5 福祉関係者の語り

講演の記録 (グラフィックレコーディング)

- No. 6～9 講演

※グラフィックレコーディングとは、ホワイトボードや紙に、会議や議論などの内容をデザインとして可視化し、整理していく手法です。



シンポジウム 「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

シンポジウム 秋田大学教育文化学部附属 No.1
 特別支援学校 体育館

テーマ
**「夢や願いの実現
 に向けた高等部卒業後の
 豊かな学びとは？」**

コーディネーター
 弘前大学大学院
 教育学研究科
 教授 菊地一文氏

役割、やりたいこと大事!

A さん

B さん

B さん (母)

高橋基裕 先生
 元職員

神原音子 さん
 障害者就業・
 生活支援センター

A さん

H29高等部卒業

心に残っていること

1. 現場実習
 ↓ 誰とでも話せるようになりたい
2. 校外学習 (バス)
 ↓ バスにどのように乗るか分かった
3. 作業学習 (ポーチ)
 ↓ ポーチなど作った
 全国大会出場
 ↓ 趣味にも

4. 生徒会活動
 卒業後意見をまとめる
 ことに役立つ

学ばなかったこと

1. メイク
 ↓ 卒業後必要
2. 働くために必要なこと
3. 相談場所
 ↓ 連絡先を知らない人も

生涯学習センター

- ☑ 初めには防災について
- ☑ ボランティアとして
- ☑ 講座参加

個展 No.2

またやりたい
 インスタのせた!!

兄弟がいて
 いずれ一人暮らし
 家事に不慣れがある

やってみたい
 一人暮らし
 子育て支援員
 英語とギター
 みんなで集まれる
 場所づくり

ポーチを
 やりたい

先生方に教えて頂き
 自分で調べて予約
 き、かけは学校
 バスにも乗れるように
 家事教えた
 小さなお母さんに



シンポジウム 「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

B さん

小学部から調理と学んだ
小学部 → 高等部ピアノ
修学旅行で調べて計画することを学んだ

卒業後 奨励賞

- アトリエで絵を描く
- カーブスで筋トレ
一人で行っている

学校での学びがっつり
地域に支えられている
美容院も
小学部にバス1人で乗る目標達成

やりたいこと

1. アトリオンで絵の展覧会
2. ドラマの聖地巡礼
3. ミュージカルを見る
4. よしものお笑いを見る

たくさん歌いたい
これから行く

豪華なマンション
買ってみたい

Q 何に夢中?
相棒に夢中
嵐に入りたい

Q 自分で決めて行動?
自分で決めたことが
大多数
家族も楽しんで行動

No.3

高橋基裕先生
11年間勤務 元職員

B さん
ハキハキしている!
中学部で病気に
病院で手術
元気になった

A さん
感情の起伏があった
高2で生徒会長
キャプテン → チームまとめた
役割 → Xリハリ
背中を叩ける 仲間の存在
惹かれるところ
話していると楽しい
やるときはやる!

いいところ

- 人の良いところをさがす
- 人の気持ちがわかる
- 最後まで頑張る

力になっている
家族のサポート
健康
前向きな気持ち

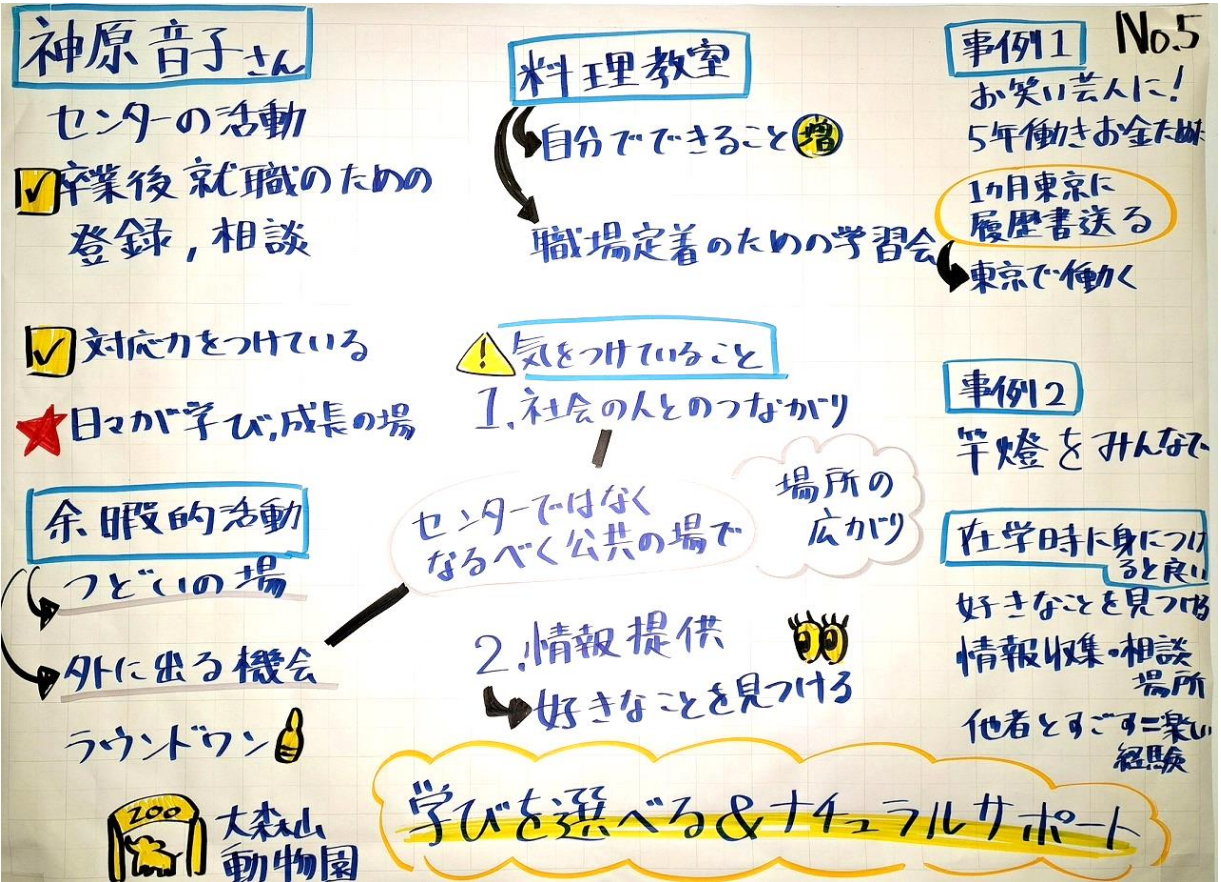
Q 応援計画について
自分のことを話せる
→ 将来役立つ
主体的に選択でき
自分で切り開く力
自分ことの学びになっている

No.4



シンポジウム 「夢や願いの実現に向けた高等部卒業後の豊かな学びとは？」

障害者就業・生活支援センター





講演 「豊かな学びを未来につなげるために～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」
弘前大学大学院 教育学研究科 教授 菊地 一文 様

講演

豊かな学びを未来につなげるために

～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～

弘前大学 大学院
教育学研究科
教授 菊地 一文 氏

キーワードは...

キャリア

E-ジェンシ

ウェルビーイング

→ 学習の中に互に入れられるように!

NO.6

1. 豊かな学びについて考える

語り合って具体化が必要

だれのため?
どこで?

どのように?
どう活かす?

↓

どう感じている? 周りはどう変わる?

↓

具体化が必要! どういう支援が必要か? が見えてくる。

本日の公開授業での気づき!

子どもの行動・姿に
変化 育ちの芽生え
が見えた!!

× 教えこみ
受け手 聞き手

「かたの雰囲気」
↓
「手応え」あそび後
変わった!!

集中

他者意識の記述も!

自分の考えを決める時
相手の考えを決める時
の育ちがあった

NO.7

何に心が
重くののか?

何をどう判断
しているのか?

個別
最適
な学び

協働的
な学び
...が求められている

well-being に向けた Agency

周りの他者や社会に
いい影響を
与える力

思い

の理解に繋がる

他者
からの
価値
づけ

4つの
学び意欲

- 内容ごたか型
- 関係ごたか型
- 条件ごたか型
- 自己ごたか型

体験の対価ね!!
学び意欲が生まれる



講演「豊かな学びを未来につなげるために～ヒト・コト・モノをつなぐ対話を再考する～」
弘前大学大学院 教育学研究科 教授 菊地 一文 様

2. ヒト・コト・モノをつなげた通じたキャリア発達支援

心が重んじられる 実際の学び / 主体的な学び

英検 / 野鳥 / あいさつ

単元・総合学習

社会に影響する!

生涯的モデル

「居住地交流」の効果为例にぜひ語り合ってください!

ある親御さんからの

3. 対話とおし学びをつなぐキャリアパスポート

個別の指導計画 → 本人の願いに注目して作成

対話のツール

活用

作成の枠外 → 指導に活用 → 変更OK!

- 可視化・具体化
- ICT活用
- 対話サイクルとマテリアル
- 教師の力量形成のために学び合

①状況 ②心情 ③背景 ④展望

① 将来につながるいまを記録

目標

キャリアパスポート

② 今までの振り返り

目標の可視化 → つなげる学習

なりたい自分・必要なこと・とりかかろう

Point! やってきたことを仲間と語り始める! 答えやあいまいな問いを投げかける

友だち同士で話す・解決することも大切

共感し、納得したい!

✗ 正しい答えを導き出すための問い

省察による学び育ち

起きたことと振り返る

視野の広がりが入る

Q. キャリアパスポートの卒業後の活用事例は?

A. 事業所とのやり取りで使っている学校も!

目標

本人が持っているもの

まだまだ事例は少ない...

資料が増えたらEP巻...

知り知り とすることが大事

【引用・参考文献】

- (1) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「ひと・地域・未来をつなぐ」研究紀要第41・42・43集, 2015・2016・2017
- (2) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「本人主体の個別の教育支援計画（私の応援計画）を活用した教育課程の編成」研究紀要第44・45集, 2018・2019
- (3) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「児童生徒の『生涯学習力』を高める教育課程の編成」研究紀要第46・47集, 2020・2021
- (4) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる～学びの積み重ねの実践とゆるやかなネットワークの構築～」研究紀要第48集, 2022
- (5) 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 「新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる～『生涯学習力』を高める授業づくりを通して～」研究紀要第49集, 2023
- (6) 菊地一文 (2021) 「知的障害教育における学びをつなぐキャリアデザイン-本人の思いや願いを踏まえた深い学びの実現に向けて-」ジアース教育新社
- (7) 文部科学省 (1981) 「生涯教育について（答申）」中央教育審議会
- (8) 文部科学省 (2010) 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」
- (9) 文部科学省 (2010) 「特別支援教育の在り方に関する特別委員会 論点整理」
- (10) 文部科学省 (2012) 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」
- (11) 文部科学省 (2012) 「障がいのある学生の修学支援に関する検討会報告（第一次まとめ）」
- (12) 文部科学省 (2016) 「教育課程企画特別部会 論点整理」
- (13) 文部科学省 (2016) 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
- (14) 文部科学省 (2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）」
- (15) 文部科学省 (2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」
- (16) 文部科学省 (2017) 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）」
- (17) 文部科学省 (2017) 「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」
- (18) 文部科学省 (2018) 「学校卒業後における障害者の学びの推進方策について（論点整理）」
- (19) 文部科学省 (2018) 「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」
- (20) 文部科学省 (2018) 「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」
- (21) 文部科学省 (2018) 「第3期教育振興基本計画」
- (22) 文部科学省 (2019) 「障害者活躍推進プラン～障害のある人の力を生かして未来を切り開くために必要な5つの政策プラン～」
- (23) 文部科学省 (2019) 「障害者の生涯学習の推進方策について（通知）」
- (24) 文部科学省 (2019) 「障害者の生涯学習の推進方策について—誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して—（報告）」
- (25) 文部科学省 (2020) 「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」
- (26) 文部科学省 (2021) 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」中央教育審議会
- (27) 高橋基裕 藤井慶博 (2020) 「当事者主体の個別の教育支援計画の実践とその効果に関する研究」発達障害研究：日本発達障害学会機関誌 / 日本発達障害学会 編 41(4)
- (28) 津田英二 (2023) 「生涯学習のインクルージョン -知的障害者がもたらす豊かな学び-」明石書店